

# 選手を支える人々

少年野球は、選手たちだけでは成り立たない。監督やコーチはもちろん、保護者やOBなど多くの人からの支えによって成り立っている。選手の活躍を陰から支えている人々に話を聞いた。



監督 中隆之 田中

「少年野球は勝ち負けにこだわらなくていい」という少年野球チームがよくありますが、私はそうは思いません。勝ちたいから練習し、負けたくないから練習するんです。試合に負けて「悔しい」という思いがなければ、いつまで経っても上手くなりません。

「少年野球は勝ち負けにこだわらなくていい」という少年野球チームがよくありますが、私はそうは思いません。勝ちたいから練習し、負けたくないから練習するんです。試合に負けて「悔しい」という思いがなければ、いつまで経っても上手くなりません。

## 勝つために必要なことを選手に伝えていく

なぜか、など、過程を含めて教えて、選手の理解を深めていっています。

そういつたことを練習で教えているときには、選手に対して大きな声を出すことが多く、周囲から「怒っている」「怖い」と言われることがあります(笑)

でも、決して怒ってる訳ではなく、私の気持ちを子どもたちに伝えるために声を出しているんです。声を出して練習している子どもたちより大きな声を出さなければ、私の気持ちが伝わる訳がありませんから。



コーチ 秋枝 正人

## 六年生の活躍が勝利の鍵

今のチームの鍵を握っているのは、やはり六年生3人の力です。六年生が活躍するとベンチも盛り上がり、下級生の動きも良くなり、具体的には、松尾くん、坂本くんの両投手がしっかりと投げること。そして塁に出たランナーを、秋枝くんを中心とした六年生が打つて点を入れること。この流れを作ることでできればとても強いチームです。

確かに現在、桂スポは六年生の選手が少なく、力不足は否めません。今回の大会には、県内外の強豪チームも出場します。しかし、桂スポの野球をしつかりとやれば、強豪チームにも決して負けないチームです。大会では、選手全員が実力を発揮してくれることを期待しています。



## 桂スポで学び甲子園に出場

元飯塚高校野球部 現、刈田ビクトリーズに所属 古賀大輝 さん

桂スポには小学校二年生から5年間在籍しました。桂スポでは、野球に対する姿勢の基本を数多く学びました。おかげで中学・高校野球でもその経験を活かすことができ、平成24年に飯塚高校で甲子園に出場できたのも桂スポで学んだことが活かした結果だと思っています。

確かに練習ではきついこともありました。河原をずーっと走らされたり(笑)でも、桂スポはとにかく明るく、練習のメリハリが付いているので頑張っただけでした。今の選手も、野球が好きでやっていると思うので、きついことがあっても、それに耐えて成長して、より上のレベルで頑張っただけだと思います。



桂スポ保護者会 (今井圭祐くん保護者) 今井 秀典 さん

## 野球を通して色んなことを学んで

桂スポの保護者会では、子どもたちの送迎はもちろん、大会時の準備や審判などを行っています。色々と大変ですが、やっているのは「子どもたちのため」という一言に尽きます。

子どもたちには、野球が上手くなることももちろんですが、忍耐力や集中力など、精神面でも鍛えられることを願っています。桂スポでの野球を通して、色々なことを学んでもらえれば親としてはとても嬉しいことです。

桂スポは、親も子も団結力がとても強いチームです。今回の大会でも、団結力の強さではどこのチームにも負けません。「優勝」と言う目標のため、一致団結して、子どもたちを精一杯サポートしたいと思います。